

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三浦市役所庁舎	階数	地上3F
建設地	神奈川県三浦市	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、法22条区域	平均居住人員	431人
地域区分	7地域	年間使用時間	4,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年2月3日
敷地面積	10,724 m ²	作成者	株式会社アール・アイ・エー
建築面積	2,824 m ²	確認日	2025年2月3日
延床面積	8,072 m ²	確認者	株式会社アール・アイ・エー



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 2.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.6</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>神奈川県三浦市の新市役所庁舎計画である。環境に配慮し高い省エネ性能を確保している。2階に主な執務室があり、そのフロア中央には地域に開かれた空間を確保している。またその空間は最上階まで吹き抜け、合わせてハイサイドライトも設けられており、明るく開放的な空間として計画している。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 遮音性の高いサッシを使用している。 センサー等による自動照明設備を採用し、光・視環境に配慮している。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の用途変更の可能性等に配慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。 耐用年数の長い外装・内装材を使用し、建物の耐久性に配慮している。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存樹木の保存を含め、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。 建物利用者が自然に親しめるように植物銘板を設置し、良好な緑地環境に配慮している。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> Low-eガラスを採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水器具を積極的に採用し、水資源の保護に配慮している。 再利用可能なユニット部材を採用することにより、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 日影規制に対し1ランク高い基準を満たしている。 周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
三浦市役所庁舎

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						3.6	
Q1 室内環境			0.40			3.5			
1 音環境		4.0	0.15			4.0			
1.1 室内騒音レベル	目標騒音レベル45dB	4.0	0.40						
1.2 遮音		4.2	0.40						
1 開口部遮音性能	遮音性能は、T-2以上である	5.0	0.60						
2 界壁遮音性能	—	3.0	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—								
1.3 吸音	床と天井の二面に吸音材を使用している	4.0	0.20						
2 温熱環境		2.9	0.35			2.9			
2.1 室温制御		2.8	0.50						
1 室温	—	3.0	0.38						
2 外皮性能	断熱性の高い躯体構成を採用している	3.7	0.25						
3 ゾーン別制御性	—	2.0	0.38						
2.2 湿度制御	—	3.0	0.20						
2.3 空調方式	—	3.0	0.30						
3 光・視環境		4.0	0.25			4.0			
3.1 昼光利用		3.4	0.30						
1 昼光率	—	3.0	0.60						
2 方位別開口	—								
3 昼光利用設備	ハイサイドライトを採用している	4.0	0.40						
3.2 グレア対策		4.0	0.30						
1 昼光制御	ブラインドと庇により、グレアを制御している	4.0	1.00						
3.3 照度	全般照明方式で、500lx以上1000lx未満を確保	4.0	0.15						
3.4 照明制御	センサー等により自動照明制御が可能である	5.0	0.25						
4 空気質環境		3.6	0.25			3.6			
4.1 発生源対策		3.0	0.50						
1 化学汚染物質	—	3.0	1.00						
4.2 換気		4.0	0.30						
1 換気量	法定換気量の1.2倍を確保している	4.0	0.33						
2 自然換気性能	十分な自然換気有効開口面積を確保している	5.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.33						
4.3 運用管理		4.5	0.20						
1 CO ₂ の監視	管理マニュアルの整備を計画している	4.0	0.50						
2 喫煙の制御	全館禁煙で計画している	5.0	0.50						
Q2 サービス性能		—	0.30			3.4			
1 機能性		3.4	0.40			3.4			
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40						
1 広さ・収納性	—	1.0	0.33						
2 高度情報通信設備対応	—	1.0	0.33						
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準項目を満たす	4.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30						
1 広さ感・景観	天井高を確保する事で広さ感や解放感に配慮している	5.0	0.33						
2 リフレッシュスペース	十分なリフレッシュスペースと自動販売機の設置を行っている	5.0	0.33						
3 内装計画	照明と内装を一体として計画している	4.0	0.33						
1.3 維持管理		4.0	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	トイレの壁・床に防汚性の高い内装材を使用している等	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保	トイレ毎にSKを設置し、維持管理用機能を確保	4.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.5	0.30			3.5			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30						
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数の長い外壁仕上げ材を使用	5.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	5.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VP、排水:VP、冷媒:銅管	4.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20						
2.4 信頼性		4.4	0.20						
1 空調・換気設備	吊配管による地震時の影響低減などの対策がある	5.0	0.20						
2 給排水・衛生設備	節水機器の採用、災害時用の水栓設置等がある	4.0	0.20						
3 電気設備	非常用発電機の設置、電源設備の地下設置回避等	4.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	耐震クラス:Aクラス	4.0	0.20						
5 通信・情報設備	通信手段の多様化、地下への浸水の防止措置	5.0	0.20						

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高を確保することで将来の用途変更に考慮		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.3未満0.1以上		4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出	豊富な緑の量を確保する計画としている		4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	まちなみに配慮した景観計画としている		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮・快適性の向上	地域性への開放性と防災への配慮		5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	ハイサイドライトを採用		4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	効率のよい設備機器を導入している		4.1	0.50	-	-	4.1
集合住宅以外の評価			4.1	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減	QLデッキ合成スラブ等を採用		5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ウッドデッキ、岩綿吸音板、断熱材にエコマーク、グリーン購入法商品を採用している		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSE工法、OAフロアの採用		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.4	0.20	-	-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1 消火剤	不活性ガス消火剤を使用している		4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材を採用している		4.0	0.33	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減		4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪・駐車スペースを確保し車両出入り時の混雑を避けた計画		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	0.50	-	-	
2 振動	-		3.0	0.50	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	風害対策に対する要求がない		-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている		4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満足している		4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	3.0	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	○	-	-	○	-	-	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0	-	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	4.0	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	12.0	-	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0	-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0	-	-	2.0	1.0	2.0	-	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	5.0	-	-	-	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0	-	1.0	-	2.0	3.0	2.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.7 窓の日射熱取得率(η) 0.6 U値(W/m2K) 窓システム 2.0 屋根 - 外壁 0.3 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH - 屋光率 1.9% 自然換気有効開口面積率 7.5%
3.1.1 屋光率	1.9%
4.2.2 自然換気性能	7.5%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 4.5㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 3 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 19.8% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 40 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 5 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 12.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 2900 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 31% 建物緑化指数 9%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 74% 水平投影面積率 10% 地表面対策面積率 26% 舗装面積率 0%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.78 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0% 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
3 設備システムの高効率化	BEI/BEI _m 再エネ有 0.46 無 0.48 オフサイト再エネ有 0.30 - 一次エネ削減率 再エネ有 無 -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 断熱材 エコマーク商品 ウッドデッキ、岩綿、着床指定の特品目等
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 0
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 55% 隣棟間隔指標Rw 6.08 地表面対策面積率 36.0% 屋根面対策面積率 4.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 703㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 89.1 m 基準高さHb 14.29 m 緑地 1,915㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡